

生物多様性を劣化させる
主要因を、HIPPOと表
す。これは、Habitat Loss
(生息地の消失)・Invasive
Species(外来種)・Polluti
on(汚染)・Human Pop
ulation(人口増加)・Over
harvesting(乱獲)の頭文
字を取ったものだ。中でも、
世界的な人口増加は食料増
産や居住地拡大を引き起こ
し、森林や湿地などが減少
したり、野生生物が数を減
らす大きな原因となつてき
た。

一方、世界の状況とは異

進む過疎化と高齢化

マイナス影響を与える。環
境省の『生物多様性国家戦
略2012〜2020』で
は、日本の生物多様性に対
する危機の一つとして、人
間活動の縮小を挙げている
のだ。
それでは、なぜ、人が減
ると生物多様性の危機とな
るのか。日本列島を構成す
る環境の多くは、農林業や
生活を通じて創り出された
二次的な自然である。例え
ば、植林されたスギ・ヒノ
キなどの針葉樹林、クヌギ
などの落葉樹林、農地と周
辺の水路やため池、あるいは
採草地として利用する草
原などが挙げられる。都市
と奥山の中間には、規模は
小さくとも多様なこれら環

境がモザイク状に入り組
み、生物たちの生息地とし
て重要な役割を果たしてき
た。里山である。

里山は、農業や林業を営
む人間と自然がかかわりあ
って生まれる環境だ。そこ
に人のくらしがあり、人が
自然を利用することで里山
は存在する。しかし、地方
特に中山間地域では過疎化
と高齢化がますます勢い
で進む。人のくらしがなく
なり、資源利用が変化する
と、里山の様子は大きく変
わってしまうのだ。
たとえば、中山間地域の
いたるところには森林が広
がる。森が二酸化炭素吸収
に役立ち、昆虫、鳥、哺乳
類などの生息地となること
は広く知られるから、森の
大切さに異を唱える人はい
ないだろう。だから、山に
木が立ち並ぶ様子は喜ぶべ
きことと考えるかもしれない。
しかし、ただ木が生えて
いるだけでは、生物のすみ
かとして十分ではないの
だ。里山の森林は、人が苗
を植え、手入れをして育て
る森である。頻繁に枝葉を
落とすし、下草を刈る必要が
ある。そうやって世話をし
なければ木は貧弱になり、
タケやササが繁茂してヤブ
化が進行し、生息できる動
植物の多様性が失われる。
また、水源の涵養(かんよ
う)や土砂災害の防止なども、
手入れの行き届いた森林が
持つ優れた機能も発揮され
ない。

人と自然の共存に 大きな課題

なり、日本では人口が減少
しつつある。人が減るのだ
から、生物多様性保全には
都合が良いのだろうか。実
は、そう都合良くは行かな
い。



名古屋経済大学経済学部准教授
佐野 八重

少子高齢化に伴う人口減
少は、日本の自然に大きな
さの やえ 環境学。オースト
リア国立大学クロフォードスク
ール博士課程修了。博士。1996
8年生まれ。

残念なことに、今、多く
の里山で森林が放置されて
いる。採算のとれる林業経
営は難しく、さらに高齢化
や過疎化による人手不足が
原因となっている。そして、
放置された里山の生態系
は、多様性と機能を失う。
世界では人が増えて地球環
境の危機が心配されている
のに、日本では人がいない
ために、自然と人とのバラ
ンスを保つことができない
のだ。
人口減少と高齢化は、日
本の経済や福祉の大きな課
題であるだけではない。自
然と人間の活動が共存でき
る社会の構築にとっても重
要な課題なのである。

